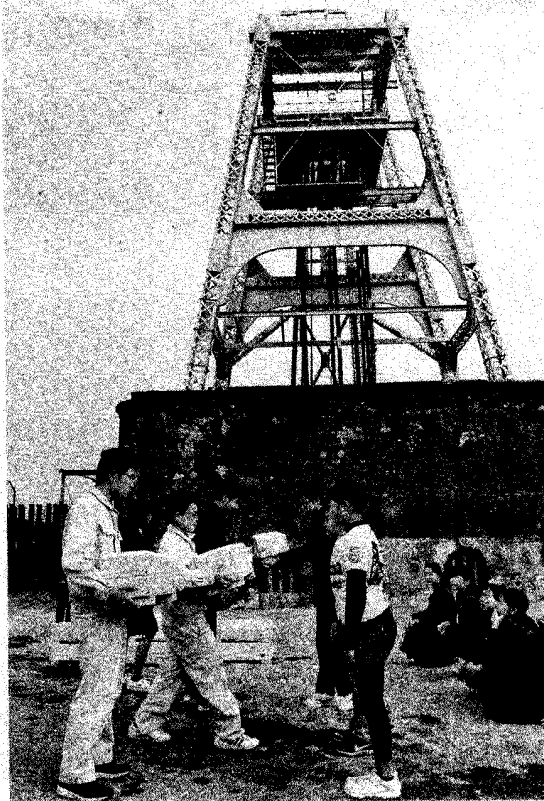


宮原坑 花で飾ろう

三池工高・宮原中・駛馬小が協力

プランター作り絵付け

世界遺産の大牟田市宮原町の宮原坑を花で飾ろうと、同市の三池工業高校と宮原中学校、駛馬小学校による取り組みが始まった。24日には、高校生から小中学生へ、木製プランターが手渡された。今後、児童と生徒がプランターに絵を描き、花を植えて同坑に飾り付ける。



手作りのプランターを小中学生に託す高校生(左)

大牟田

3校はそれぞれ同坑近くに立地し、ユネスコスクーに登録している。今回の取り組みも世界遺産を通じた持続可能なまちづくりとして、小中高校生が協力して明るく元気な大牟田を実現しよう企画された。三池工業高土木科3年生が木製のプランター10個を製作。それに小中学生が絵付けする。

同坑で行われた式典では土木科3年の中崎夢乃さん(18)が「皆さんに絵を描いたり、花を植えたりしてもらえればうれしいです。これからも世界遺産のPRを含め、盛り上げていければ良いと思います」とあいさつし、小中学生の代表にプランターを託した。受け取った駛馬小6年の松原里奈さん(12)は「思いを込めて絵を描かせてもらい、宮原坑が花いっぱいになるよう頑張ります」と抱負。宮原中3年の武田真穂さん(15)は「すでにプランターをありがたうございます。小学校・中学校・高校と一緒に宮原坑を盛り上げていきたいと思います」と述べた。プランターは3月から4月にかけて

同坑に設置される予定。また、この日は、三池工業高校から、生徒が製作した木製ベンチとテーブル、掲示板の寄贈もあった。同校からのベンチセットの寄贈は昨年に続き2回目。今回は土木科生徒が製作したベンチ4脚とテーブル2台、掲示板1台を市へ贈った。寄贈式では三池工業高土木科3年の江崎大晟君(18)が「昨年は先輩たちが贈り、今年は私たちが作りました。来年は後輩たちが作ってくれたいと思います」とあいさつ。同市世界遺産・文化財室の川地伸一室長は感謝状を贈り、「皆さんが宮原坑を盛り上げようと考えてくれることはありがたい」を謝辞を述べた。

(矢野 大輔)